

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100260		
法人名	有限会社フローラ		
事業所名	グループホーム上砂川(ユニット遊)		
所在地	空知郡上砂川町下鶉南2条1丁目3-1		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	平成26年11月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0177100260-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0177100260-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年9月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた落ち付いた雰囲気です。四季を感じられる上砂川唯一のグループホームです。近所の方を交えて時間をかけてゆっくりと100歳体操を行い、月2回オカリナ演奏などのボランティアの訪問も頻繁にあります。上砂川認知症の会にも加盟し地域の方々と共に、交流を深めています。今年には開設から10周年という節目の年でもあり、積極的に外でのレクリエーション等も行っていきます。

閑静な四季を感じられる自然に恵まれた事業所で、家族や近所の方が春は落やコゴミなどの山菜、秋にはお米や豆を差入れてくれて、職員が調理して旬の味覚を楽しんでいる。カロリー計算をしてしっかり栄養が摂れるように配慮している。天気の良い日はちらし寿司などを作り、屋外に出て食事をする機会をしばしば設けている。月に2回「100歳体操」の日があり、近所の方と一緒にイスに腰掛けて30分位かけてゆっくりと身体を動かし、地域交流と健康管理をしている。危険の素は小さなことでも問題として話し合い未然に防ぐことを心掛けている。職員の向上心は旺盛で、先輩による模擬実技試験の成果もあり、昨年3名・今年2名と介護福祉士の合格者がでており、現在職員の60%以上が有資格者となり、利用者にとって職員はケアの技術を持った家族の様でありたいと願い、知識・技術の質の向上を図って日々努力を重ねている。面会に訪れたり、ドライブに連れて行く家族も多い。地域住民は積極的に避難訓練に参加し、そんな職員・家族・地域住民に支えられて、利用者は安心・安全に毎日を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し、理念に沿った支援を心がけ実践しています。	法人の理念「ゆったり楽しく安心して自分らしく暮らす」と職員で作成した「地域の方々の声に耳を傾け、連携を図り支え合う」を作成し、誰もが見られる場所に掲示して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方々に協力して頂きながら、100歳体操、避難訓練などに参加して頂き交流を深めています。	オカリナ演奏や百歳体操等のボランティアや野菜・果物を差し入れに来る地域住民が頻繁に訪れている。入居者全員で砂川祭に出かけて出店で楽しむなど地域との相互の交流がある。	地域住民に広くグループホームの機能や入居者の生活について知ってもらい、更に事業所への理解と協力を得るよう努め、その結果、散歩ボランティアをしてもらうなど利用者のケア向上に役立つよう繋げていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の認知症の会に加盟し、情報交換やアドバイスなど行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、地域包括支援センター職員、町内の認知症の会の方々、消費者協会の方などに参加して頂きサービス、ケアの向上に活かしております。	2か月に一度、地域包括支援センター職員、認知症の会会長、町内会などが参加して、現状を報告しながら、事業所が困っている事などについて様々な意見やアドバイスをもらっている。詳細な議事録を作成して参考にしながらサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町福祉課、包括支援センターに相談し、その都度助言を頂いております。	運営推進会議に出席する町職員と常に連絡・相談をし、生活保護や介護保険の更新で役場を訪れて報告をしながら連携を図っている。町の広報「かみすながわ」に事業所の紹介記事が掲載されるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束が必要な利用者様はいませんが、職員一同、身体拘束の基準を理解し、身体拘束を行わない支援に取り組んでいます。	玄関のよく見える場所に「拘束ゼロ」の目標を宣言した文書を掲示している。利用者の一日の行動をこまかくチェックすることによりアセスメント表を作成。これを利用して拘束をしないケアに繋げて、身体拘束を行わない支援を実践している。夜間は防犯のために施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する道主催の研修に毎年参加し、内部研修で学ぶ機会を持ち、職員同士での情報交換を行い虐待防止に努めています。		

グループホーム上砂川(ユニット遊)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こちらのユニットでは今必要と思われる利用者様はおりませんが、今後必要になると思われる為、成年後見センターの外部研修に出席したり、内部研修を積極的に行っていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時には、十分な時間をとり、ご家族様に説明しご理解頂いております。又、不安や疑問点にも配慮しご説明させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、来所時などにご意見・ご要望を聞きながら、ご家族とコミュニケーションをはかり、より良い関係性を作る努力をしています。	来所する家族に積極的に話しかけて意見や要望を把握できるよう努めている。遠距離に住む家族には、月1回入居者の生活や状況を記載した事業所通信を送付し、ホームでの様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、モニタリング時など、意見、提案に耳を傾け出来る限り尊重し、反映しております。又、意見、提案を言いやすい環境作りにも配慮しています。	管理者と職員、職員間はコミュニケーションがとれ、職員のちょっとしたアイデアや工夫を取り入れ介護ケアの改善に結びつけている。例えば「個人のチェック表」は職員皆の提案により、簡便で一覧性に優れたより使い易い表に進化を遂げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々と話す時間を多く作り、意見、要望を聞く時間を作るように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員での情報交換や、外部研修、内部研修など学ぶ機会を増やし、知識、向上心を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、市町村で開催している交流の場に積極的に参加していきたいと思っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に面接を行い、情報収集すると共に、困っている事、不安な事を聞き、受け止め安心できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問、来所して頂き、ご家族様の不安、ご意見、ご要望をお聞きし解決出来るよう努めてまいります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当の支援専門員、医師との連携を密にし、ご家族様、ご本人にとって一番必要な支援を提供できる様努めてまいります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下ごしらえ、居室の掃除、シーツ交換などを出来る方には手伝ってもらい、日々の暮らしを一緒に過ごす事で、介護する・されるという関係を感じさせず、互いに支え合う関係を築いています。		
19		○本人と共に過ごし支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所して頂ける様に取り組んでいます。ご意見、情報を共有し、共に同じ思いで支えていける様、心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方等馴染みの関係を出来る限り継続維持できるよう努めてまいります。又、いつでも来所して頂けるよう取り組んでおります。	家族や知人の面会が頻繁にあり、ゆっくり話が出来るように配慮している。出張理容師が2ヶ月毎に訪れ、すっかり顔なじみになった。従来から通っていた民謡教室に引き続き通っている利用者がおり、介護タクシーの手配をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操での自己紹介や、職員を交えてのゲームの交流など、利用者様同士が関わりを持てるように努めています。性格の不一致でのトラブルにも配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご家族様の相談に応じております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションを密にし、言動、行動などから思いや意向、希望の把握に努めています。	利用者一人ひとりのやりたいことを聞き取って、ダンボール工作、民謡、草刈りなど実現に繋げている。食事のメニューや外出先についても利用者の要望を聞き取って決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境など、ご本人、ご家族の方からの情報を基に生活リズムなど、その人にあった支援を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とのコミュニケーションを図り、職員同士での情報交換を行い現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に定期的なモニタリングを行い、ご本人、ご家族意向を出来るだけ取り入れた介護計画を作成しております。	本人や家族の希望を聞いて、ケアマネージャーを中心に介護計画書を作成する。職員が気づきやアイデアを出し合いながら、入居当初は1ヶ月ごと、その後は3ヶ月ごとに見直しを行って、今何が一番必要かを考えて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録を作成し介護計画の見直しに活かしています。又、職員間で情報を共有しケアの向上にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、柔軟な対応を出来るように努めていますが、多機能化した対応は難しい場合もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員が参加し避難訓練を行ったり、町内会、認知症の会などと、地域交流しながら支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様に十分な説明をしご理解を頂き当ホーム往診主治医に変更される方が多いです。必要に応じて他院に通院を支援しています。	家族らの希望を最優先にして、かかりつけ医を変更する場合も十分な理解を得ている。精神科医は従来のかかりつけ医を継続して、職員が状態を説明するため同行し、医者に状況を伝えて、その結果を家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師に医療連携の支援、相談し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の医療機関、総合病院の地域連携室、市町村など、医療機関との関係を密にし対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、職員と十分に話し合い、ご本人様にとって、一番良い方法を考えるよう努めています。	終末期について契約時に希望を聞き、事業所で対応できる範囲を説明して理解を得ている。重度化した場合は主治医の意見を聞きながら、家族の希望に沿えるように情報提供や事業所で出来るギリギリまで介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による普通救命講習を職員全員が受講を完了した。応急手当の対応など個々で学習し実践力を身につけるように努めております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。通報訓練や地域の方にも参加頂き、緊急連絡網にも町内会の方に入っています。	春と秋の2回、消防署や地域住民も参加して避難訓練を行い、うち1回は夜間想定で一人の職員が利用者を玄関先まで避難させている。住民には玄関先に避難した入居者の安全を見守ることをお願いしている。結果を職員で話し、さらなる改善に繋げている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重しながら言葉遣い、声かけに十分配慮し対応しています。又、指示、命令、トイレ誘導時など、プライバシーを損ねない声かけを徹底しています。	声掛けは名で行う。特にトイレ誘導や汚物処理の際はプライバシーや尊厳を損なわないように配慮している。時間の許す限り話し相手になり、傾聴を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できる場面を多く取り入れ働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごすか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様の希望を重視していますが完全には個別支援が出来ていないのが現状です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感、季節感を大事にして頂けるように支援しております。又、ご本人の希望される理美容店にもいきその人らしいおしゃれを楽しんで頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を生かし下準備、片付けなどに参加して頂いております。外での食事や職員が同じテーブルで一緒に食事をとりコミュニケーションを図っています。	職員がリクエストを聞いて、差入れられた季節の野菜や冷蔵庫の中にある食材を利用して自ら作り、利用者は下準備、片付けなどを行い、一緒に楽しく食事をしている。天気の良い日は幕の内弁当やちらし寿司を作って屋外でとることがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形、量、味付けなど工夫をしています。一人ひとりの食事量、水分量、カロリーを把握し、主治医、看護師に相談、指示をもらい必要に応じ経腸栄養剤などを使用し栄養バランスを維持しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導を行い支援をおこなっていません。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄に自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握しトイレでの排泄が出来る様、支援しています。	自立排泄は身体活動や生活の質の維持に直結する大事な要素であると認識して、排泄・水分摂取チェック表により、適切な声掛けをしながらトイレでの自立排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を使用した献立、乳製品のオヤツ、水分量など工夫していますが、自然排便が難しい方が多く、主治医と相談し下剤を使用している方もいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の体調を把握し出来る限り希望に沿った支援を行っています。楽しい入浴になるように、入浴剤を使って季節感を感じて頂いております。	週2回から3回の入浴を基本とするが、要望があれば応えている。入浴時は若かった頃の話に耳を傾けたり、一緒に歌を歌ったりして、楽しくゆったりした入浴になるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、夜間の睡眠に影響がない範囲でのお昼寝などの支援を行っております。また不眠時などは会話をしリラックス出来る空間を提供します。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤ファイルを作り、薬剤情報を整理し、職員がいつでも確認できるようにしています。薬の変更時でも申し送りノートに書き情報の共有を徹底しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員や利用者様同士で困るなど楽しんだり、趣味や出来ることを支援しています。出来るだけ自分の居室の掃除をして頂き、また食器洗いや下準備を自分の役割として手伝う入居者がおられます			

グループホーム上砂川(ユニット遊)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者様に理美容院など外出支援を行っています。今後は、介護車を利用し外出の機会を増やす支援を行いたいと思っています。また家族と外出や外泊を楽しむ入居者がおられます。	ラーメンを食べに外食したり、お祭りの出店を見たり、ラベンダーなど季節の花を見てアイスクリームを食べたりと様々な機会に外出を心掛けている。遠出できなくても外で焼き肉や寿司を食べたり、陽にあたる機会を設けて気分転換をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方を除いてホームで管理しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話など希望時にその都度対応しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に小物、季節の花など飾っております。また、温度調節にも配慮しています。	居室は居間の回りに設置されて見守りしやすい構造である。落ち着いた色調の居間に貼られたひな祭りや七夕の飾り物が季節感を感じさせる。特に冬場は居室に洗濯物、居間に濡れたシーツを干して、適切な湿度の維持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置し玄関フロアにはベンチを置き気の合った利用者様同士が、日向ぼっこやソファでの会話を楽しんで頂けるようにと思い設置しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人様、ご家族様にご説明しご自宅より出来るだけ使い慣れた家具、小物など持参して使用して頂いております。	場所は変わっても、今まで暮らしていた部屋の雰囲気を変えないように、家族に協力してもらっている。仏壇をおいて月命日に僧侶が訪れ読経してもらおう利用者がいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各箇所に手すりを設置しホーム内を完全バリアフリーにしております。			